

行政 トピックス

共に語り合う、地域の課題
住み良いまちをつくるため

—平成21年度市政懇談会—

昨年度に引き続き、今年度も10月20日から11月25日まで、市内8会場において市政懇談会を開催しました。今年度は『共に語り合う、これからのまちづくり』をテーマに、地域が抱える問題や地域特有の課題についてお聞きし、市民の



▲地域の課題について意見が交わされました



▲市政の現況を説明する佐々木市長

皆さんと行政との協働による住みよいまちづくりを進めていくことを目的に実施しました。8会場ですべ363人の市民の皆さんにご参加いただき、野生鳥獣被害、新型インフルエンザ対策、市道・橋りょう改修、高齢化が進む集落の課題など、さまざまなご意見、ご提案をいただきました。お聞かせいただいたご意見、ご提案は十分に検討し、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

なお、次号広報なんたんでは、質疑回答の一部を掲載させていただきます。また、議事録についても、市役所行政資料コーナーおよび南丹市ホームページで公開する予定です。

優れた技能を未来に伝える

—京都府農山漁村
伝承技能登録証交付式—

10月29日、京都府園部総合庁舎で平成21年度京都府農山漁村伝承技能登録者に登録証が交付されました。農林水産分野の優れた技能を守り育てるために技能保持者を登録するもので、南丹市では、内藤定夫さん（園部町・高品質トマトの生産技術）、竹上貞美さん（八木町・饅頭づくり）、久野克己さん（日吉町・わら細工）の3人に交付。今年度は南丹管内で13人が登録され、累計で500人を越えました。



▲登録証の交付を受ける竹上貞美さん（左）



▲選定を受ける寺井憲治さん（右）

地元産品と消費者をつなぐ

—「地産地消の仕事人」選定—

地場農産物の生産、流通・販売、加工など地産地消の取り組みに関する知見や経験を有する方々を農林水産省が選定する「地産地消の仕事人」。2回目となった今回の選定では全国で41人、南丹市では美山町の寺井憲治さん（株式会社ネットワーク平屋取締役）が選ばれ、10月20日に南丹広域振興局で選定書が授与されました。寺井さんは、「京都・美山」の個性を生かした地元産品の販売促進に努め、素材に付加価値を生む新商品の開発にも取り組まれています。